

会報第26号
発行日 平成18年11月30日
発行・編集 V・G 概輪
代表者 大岡成一
http://web3.ibj.co.jp/~kirin/

きりん V.G 概輪だより

わがまち紹介 歴史の里 清水地区

「清水」という地域名は実はそう古くなく、近年になって生まれた新しい呼称で、それ以前は服部村と呼ばれていました。明治22年町村制の施行に伴い服部村に近隣の真上、原、萩谷の4ヶ村が合併して出来た新しい村の名称です。

塚脇バス停辺り

バス停は、摂津峡大通に有り南を見ると広々とした田畑が展望でき、昔は冬場寒天の天日干しが行われたところ。芥川の西之川原橋のもとに昔の寒天工場の建物が見えます。塚脇の集落の迷路のような小径を抜けてゆくと「黄金の里」という名の介護施設横を通ると道幅も少し狭くなり両側の竹藪を通り三好山へと進む。

竜神王神社

三好山への入り口とは反対側に小さな木製の鳥居がある。地元の人々もあまり知らないが、急な坂道を降りて行くと竜神王神社の本殿がある。

の下に摂津峡の川が流れている。本堂は建て変えられて新しい。本尊は大きな石の碑となっている。神社の名前は何処にも書いてない。

三好山

三好山は、三方を芥川に囲まれ、残る一方は断崖となっており、山そのものが難攻不落の砦となっており、天然の要害をもつ芥川山城跡があります。

芥川山城跡



約五百M四方に展開する戦国時代屈指城郭です。けわしい地形を巧みに利用して土橋や土塁・石垣を随所に構築し、最高所に主郭、防御正面に追手(大手)を配置した壮大なつくりになっています。

三島平野の最奥部に位置し、芥川越しに淀川流域

を一望できる城構えは、実践に対応する山城の面目躍如たるものがあります。

16世紀前半(永正年間)

に、室町幕府の管領、細川高国配下の能勢氏が西国勢と北摂武士団への備えとして築いた城砦にはじまるとされますが、本格的な山城となったのは、天文22年(1553)、阿波徳島から攻め上がった三好長慶が管領細川晴元を擁し入城したときといわれています。その後、長慶は晴元を追放、永禄3年(1562)に、河内飯盛城(四条畷市・大東市)に移るまで、この地を本拠に畿内近国八ヶ国を支配しました。

塚脇F1号古墳

F1号墳は、妙力寺境内の一角に、20m円墳で塚脇古墳群では最大、その横穴式石室は普通より幅も面積も使用された石材も大きく、立派な古墳。石室からは、豪華な馬具や武器



はつとりのもちしうか
服部連塚
6世紀中頃に作られた直径14メートル、高さ2・5メートルの横穴式石室をもつ円墳です。全国の織部(機織りを職とした人々の集団)を統率した服部連の墓と伝えられています。形は小さな丘のようになり、土が盛り上がり、おび、その周りには木が生い茂っています。木の中には地面から根が隆起し、幹が太くたくましいものもあり、年月を感じさせます。



この辺りの服部という地名は「はたおりべ」に由来しているという。
神服神社
神服神社は、『延喜式』に記載されている律令時代の神社です。
この地は、奈良時代、摂津国島上郡服部郷にあたり、

「服部連」の本拠地であったとされています。5世紀前半に、機織りの織部が各地に多数設置されることとなり、朝廷は管理者をおきました。管理者はやがて「服部(はとりべ)」と呼ばれ、諸国の織部の総領として「服部連」の姓を賜りました。

清水地区の歴史

講師 大阪歴史学芸会 古藤 幸雄 先生
先生は、「清水コミュニティセンター」開設十周年記念誌の主要部分である「清水地区の歴史」を執筆されて居られます。

先生には、特別の資料を作って頂き、短時間に、身近な話を織り込み、順序立てて内容深い講義をして頂きました。
清水地区の歴史そのものが高槻の歴史ではと感じたと思います。が、歴史ある地名が学校・交差点・バス停等にしか残っていないのに何か寂しい思いがします。

私たちのグループは、11月に10周年を迎えました。これを祝して頂くかのような内容のある講義をして頂き重ねてお礼を申し上げます。 S・O

12月度行事予定

「山崎道(西国街道)を散策:芥川町」

月 日:平成18年12月21日(木)
集合場所:JR高槻駅改札出口 13:00集合
順路:芥川一里塚 → 教宗時 → 芥川公民館 → 芥川城跡 → 環境科学センター → 芥川桜堤公園

1月度行事予定

「国道171号線沿い:工場地帯」

月 日:平成19年1月18日(木)
集合場所:JR摂津富田駅改札出口 12:50集合
順路:JR摂津富田駅 → 明治製菓 → 高槻社会保険健康センター → スポーツセンター → JR摂津富田駅